

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 8月 2日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3461
自己評価作成日	平成29年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-sakyo.jp/kohyo">http://kaken-sakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年7月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、1年中、花を育てており楽しみや生きがいに繋がっています。そして他施設との交流や行事に参加するなど地域の方々との触れ合いを大切にしています。月に1回「けやきカフェ」という喫茶店も始めました。隣接の施設や地域の方々にも来ていただき飲み物やおやつが美味しい、外出したような気分になるなどの声を頂いております。庭にはけやきの大きな木があり、そこで日中は愛犬「花子」と共に散歩をしたり木陰でお茶をしたりと憩いの場になっています。その他、レクリエーションや歩行訓練、本人のしたいことに付き添う個別の活動など支援して夜の安眠へと繋げて、みなさん健康で生き生きと穏やかな生活をされています。又、隣接する介護老人福祉施設と協力し、夏祭りや運動会など開催し地域との関わりをしています。また、防災訓練、職員研修など積極的に参加し職員の質の向上に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームの周囲は田園が広がる自然豊かな環境であり、介護老人福祉施設をはじめとする関連施設と同じ敷地に建てられている。運営も一体的になされており、運動会や夏祭り等の行事や避難訓練・緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が築かれている。母体医療機関との連携は緊密であり、十分な支援体制が整っており、利用者や家族からの信頼は厚いものがある。

○地域との交流は非常に活発であり、園庭や交流センターのホール・温泉も地域の方々に開放するとともに、料理教室や各種の行事・避難訓練等への地域の方々の参加も多い。また、月1回のカフェの開催や映画鑑賞会のほか、日常的に近隣の方々の訪問があり、庭の木陰で利用者とともにお茶を楽しんで頂いている。

○災害対策においては、消防署や地域の消防団・地域住民の協力のもとに、火災や地震・風水害も想定した避難訓練が、併設の関連施設の職員とも連携して計画的に行われている。併せて全国防災大会や法人全体の防災訓練にも毎回参加しており、職員の強い意識のもと利用者の安全確保に積極的に取り組んでいる。

○管理者は、何よりも職員が連携して利用者のケアに取り組むことが大切と考えており、申し送りや定例の職員ミーティングのほか、毎日のお茶や食事の時間も活用して必要な話し合いを行っている。職員同士の連携も良好であり、利用者へのケアや接し方について話し合い、業務改善やサービスの向上に努めている。職員は気づきも含めて記述する申し送りノートやケース記録で情報を共有し、それらは介護計画にも反映されて適切な支援につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にすることを理念に掲げ、併設の事業所や他施設との交流会や行事に参加する機会を設けている。	法人の理念とともにホーム独自の理念を掲げ、年度目標も作成して、地域との交流や思いやりを大切にして日々の暮らしの支援に取り組んでいる。掲示並びに名札へ記載して理念の共有を図り、職員の気づきも記入した申し送りノートで意義をふり返りながら、認知症ケアの研修も繰り返し実施して、より良いケアにつなげる努力を重ねている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やドライブ、お墓参りの途中で地域の方々と会話をしたり、他グループホームや施設との交流会などを年間を通して実施している。また、毎月1回カフェを開店し様々な方との交流の場となっている。	地域の方々とは、近隣の散歩やホームの木陰のベンチでのお茶飲みなど、日常的に交流は盛んである。広い敷地には関連施設も多く、交流センターのホールや温泉等を地域の方々に開放するとともに、毎月カフェも開催している。法人の夏祭りや運動会、料理教室などにも多くの地域の方々の参加があり、実習生の受入れやボランティアの来訪も頻繁である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族からの相談や見学者や実習生などを受け入れた時、認知症の人の理解やケアの方法など説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見や要望は勉強会やミーティングで取り上げサービスの向上に活かしている。	会議には地域住民や市の担当者等も参加して定期的開催されている。外部評価結果やホーム便りも委員に配布して、ホーム及び利用者の現況や問題点への取り組み状況等の報告がなされ、委員からは避難訓練や認知症ケアに関しての意見や提案・アドバイスも出され、職員は勉強会やミーティングで話し合い、地域への関わりや日々のサービス向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月現状報告を行い、待機者の情報交換を行っている。入退居がある場合は、できる限り包括支援センターや担当の福祉課の方に相談し、ご本人やご家族の望まれる生活を、考慮している。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、ホームからも毎月市の担当者を訪問して、利用者の暮らしぶりやニーズなども含めた現況報告や意見及び情報の交換を行うなど協働関係が築かれている。また、市が主催する研修等にも参加、包括支援センターの担当者のホームへの訪問があり、頻繁に意見や情報の交換が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には玄関の施錠はしないようにしているが、外へ出た方がおり職員体制が手薄になる時のみ玄関の施錠をしている。改善策を検討している。	高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束に関する勉強会を法人全体やホームで定期的実施して、職員の理解を深めケアへの反映に努めている。また、関連するマニュアルや指針等も整備されている。職員は利用者個々の状況を十分把握するように努めると共に、利用者の行動に注意を払い、連携して見守りを行っている。近隣の関連法人の職員はもとより、地域の方々とは日頃の交流を通じて見守りや声かけをしてもらえるような関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、全職員が虐待に対する弊害を心得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設事業所の勉強会に参加し、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、生活やケアの方針に対する考え方や取り組みについて説明し、聞き取りをしている。退居についてもご本人やご家族の意見を聞くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やけやき便り、面会時などで現状を報告し意見や要望など伺うようにしている。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている。	利用者の思いや意見は声かけや所作の見守り等で把握に努め、ご家族とは主に来訪時の対話や誕生会・クリスマス会の際に、話しやすい雰囲気作りを図り意見を頂くようにしている。職員は申し送りノートで共有し、毎日の休憩時間を利用したミーティングや毎月の職員ミーティング等で必要な対応を話し合い、速やかに本人や家族に報告してケアへの反映に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、代表者へ現状報告や意見を述べる会議がある。事業所では気づきや感じたことををノートに書くようにして、ミーティングで検討し、サービスに繋げている。	管理者は、毎日の申し送りやミーティング、毎月の会議等のほかにも必要時には個別対話も行い、職員の意見や提案の把握に努めている。特に職員が連携してケアに取り組むことが大切と考え、毎日のお茶の時間を活用して話し合いを行っている。対応については必要な場合はご家族にも報告し、業務改善や職員のスキルアップ、利用者へのサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の休憩時間をはっきり決めている。又、休みの希望や有休など可能な限り応えていくよう勤務表を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修やリーダー研修など外部の研修への参加や、毎月1回の法人勉強会、事業所勉強会を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設や事業所との交流会や報告会、症例発表会を実施。情報交換を行い、ケアの向上に役立てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に出向いて面接や見学などして頂き、本人、ご家族にここでの暮らしぶり、食事の様子を見てもらうなどの機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について尋ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望があれば他のサービス（デイケアなど）の利用も可能であることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花壇の花の手入れや野菜作りなどに職員・ご利用者と共に取り組み、料理の手伝いや掃除など日常で役割を持ってもらいお互い支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やけやき便りにて生活状況を報告し、ご家族と共に考えていくようにしている。必要であれば手紙や電話で連絡し、要望を伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物・ドライブ時ご利用者の地元を通ったり、墓参りなど支援している。家族へも法事など親戚の集まりなどの時は、一時帰省や外泊を進めている。	併設の関連施設にも利用者の馴染みの方々が多く、日常的な交流を積極的に支援している。ご家族のほか近隣の方々の来訪も多く、庭の木陰でのお茶飲みも頻繁に行われている。本人が希望する買い物や美容院、飲食店、ドライブ、法事等による一時的な帰宅や外泊などを、ご家族の協力も得ながら可能な限り支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶を入れ合ったり散歩の時手を差し伸べたりと仲の良い入居者同士、お互いに助け合いやすい座席の位置や散歩時の配置など考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設に面会に行くなど関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のご利用者の表情や言動、又ご家族からの情報を基にして、思いをくみ取るように努めている。	利用開始時の本人や家族からの聞き取りや、日常の言葉や表情・所作から、また、ご家族との対話から思いや意向を把握するように努めている。ミーティングやきめ細かく記録した申し送りノートで情報の共有を図り、家族とも相談しながら利用者にとってよりよい支援となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のカンファレンス、ご家族の面会時や本人との語りの中で察したり伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情や気分の観察を常に心掛け、その人のできることを、出来そうなことを促している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り・気づきノートから個別支援経過（ケース記録）としてまとめ、ご家族、ご本人、職員を含めて話し合い、ご本人の望む生活を支えることを心掛けてケアプランを作成している。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を聞き取り、また、主治医や看護師をはじめとする関係者や、職員全員の意見も基にして、利用者本人の望む生活が送れるように作成している。支援の経過は、申し送りノートからケース記録、支援経過記録に丁寧に記入され、これらを基に3ヶ月ごとにモニタリングを行って、計画の見直しや修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・気づきノートをホールへ置きいつでも記入、観覧できるようにしている。ノートを基にミーティングや引継ぎ時の申し送りで取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物やお墓参り、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店や美容室、教会やお墓参りに行くことをご家族の協力ももらいながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要なときに、適切に医療が受けられるよう支援している。	一人ひとりの利用前の受診状況を十分把握し、家族や医師との連携を密にして、本人や家族の希望に沿って母体医療機関をはじめとした受診を適切に支援している。月1～2回の医師の往診と訪問看護が毎月2回行われ、夜間や緊急時には隣接する特養の医師や看護師と連携が図られて本人やご家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問し、指導や相談をしている。又、併設施設の看護師へ入居者の情報を提供し、緊急の場合などいつでも相談できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の往診を受け、入院時も面会や電話で情報の共有している。報告会やワールドカフェなど病院関係者と関係を築ける場もあり、連絡体制も構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して理解を得ている。又、アンケートを取り、本人、ご家族の希望を踏まえて訪問看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している。	重度化や終末期の対応については、入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」で説明し、家族アンケートも活用して本人やご家族の同意を得ている。母体医療機関とともに、訪問看護師や隣接の特養と24時間体制で連携が取れる状態で、状況の変化にも可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。また、関連するマニュアルの整備やミーティングの充実も図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、訪問看護師や隣接している施設の看護師などに協力をもらい昼夜とも対応できるマニュアルを作成している。事業所勉強会でも年に1回以上手順の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や土砂災害を含めた防災・避難訓練や消火訓練を併設の事業所や地域の消防団などと連携し実施している。</p>	<p>火災をはじめとして各種の自然災害発生を想定し、消防署や地域の消防団・地域住民・関連施設の職員等も参加する、夜間を含めた避難・消火・通報訓練を年2回行っている。また、全国防災訓練や法人全体の防災訓練にもその都度参加している。関連の研修やマニュアルの整備もなされ、スプリンクラーや自動通報装置等の設置、食料や飲料水等の備蓄も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴や認知症の程度、日頃の様子から読み取れる情報をミーティングなどで話し合い、プライドを傷つけない関わり方に心掛けている。	利用者個々の生活歴や認知症の程度、見守り情報を把握して、尊厳やプライドを損ねるような声かけや言葉遣い・対応の防止に努めている。個人記録や居室の保護にも配慮がなされ、利用者の人格や思いを大切にしたい対応に取り組んでいる。また、マニュアルの整備並びに接遇や個人情報保護等の研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や入浴、活動など希望を伺いながら援助している。また、日頃の声掛けを本人主体になるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時などそれぞれの時間で行動しており、食事もその人のペースで食べてもらっている。又、どこでどう過ごすかも自己決定してもらえるような声掛けを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節毎に衣類を準備して、自分で選んでもらい、できない方は職員と共に選び、できないことは支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや盛りつけ、片付けなど行っている。又、パン作りやバイキング、外で食事をするなど企画し楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。食事形態や好みも配慮している。	旬の野菜を多く活用しており、栄養のバランスや水分摂取・おやつなど、利用者の好みや味付け・体調に配慮したメニューを工夫している。食卓の準備や後片付けなど利用者と一緒にできることは支援し、併設の関連施設との交流や家族との食事の機会などには、パンやおやつ作り、バイキング、また、弁当持参の外出など、楽しみにつなげる工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を用い、野菜を多く使った食事を提供している。又いつでも水分（お茶など）が摂れるように準備している。水分が摂れにくい方へは、本人が好むものを進めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けにて口腔ケアを促し、できない方は義歯洗浄、うがいなど支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に入居者個々の習慣や機能に応じた排泄援助を行っている。可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	ご家族からの要望や利用者の排泄状況などを聞き取り、排泄チェック表を適切に活用し、利用者個々の習慣や身体機能に応じて可能な限りトイレで排泄できるように支援している。一連の工夫は利用者個々の介護プランに盛り込まれ、不安や羞恥心にも十分配慮しながら誘導や声かけ、排泄用品の選択などを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時はおやつに芋を使っている。食物繊維を多く取り入れた献立にしたり水分を多く摂ってもらえるよう工夫している。また、散歩や屋内での歩行訓練を毎日実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているがご本人の希望や気分に合わせて柔軟に対応している。できる限り一人ひとりのペースでゆっくり入れるように努めている。	基本的には週3回の温泉入浴を、会話しながら個々の思いやペースに合わせてゆったりと楽しんで頂いている。また、利用者の状態に応じて清拭や足浴などへ切り替えている。入浴を拒否される場合には、言葉かけの工夫や時間帯を変更してスムーズに入浴して頂けるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝などその都度ご本人に伺いながら希望に添った対応をしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルに一人ひとりの薬の説明書を綴っており、全職員がいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で掃除や洗濯物たたみ、食事作り、野菜や花作り、買い物など可能なことを一緒にできるよう支援している。又、個別にしたいことなどに付き添える取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩や定期的にドライブ・買い物を実施している、家族へも外出を勧めており、連絡があれば準備や段取り、車の乗り降りなど安心して外出できるように支援している。	利用者の健康状態や天候に応じて、広い敷地内の花壇や菜園の手入れ、木陰では近隣の方々とお茶を楽しんだり、併設の交流センターでのカフェや映画鑑賞などでの関連施設の利用者との交流も頻繁である。本人の希望に沿って散歩や買い物・ドライブ等にも出かけている。また、ご家族の協力も得ながら弁当持参の季節の花見、法事の際の帰宅、墓参りや馴染みの美容院など、可能な限り支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じてお金の所持を支援している。所持が困難な方は預り金という形で職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があればその都度支援するが、現在は行っている方はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	老人車や歩行器、車椅子の方の移動のしやすさや、過ごしやすい室温や湿度、換気に配慮している。又、庭に季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花を飾って水槽で金魚を飼っている。	ホールはゆったりとして明るく、清潔さや室温・換気にも十分な配慮が感じられ、玄関や仏壇などに季節の花が飾られている。周囲の壁には季節感のある貼り絵も見られ、ソファも配置されて気持ちよくくつろげるように工夫されている。広い敷地には季節の花が栽培され、ホールと続いている日当たりのよいテラスや庭の木陰のベンチでは、季節に合わせてお茶のみや日光浴が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、仲の良い人同士自由に話をしたり、テレビを観たり、本を読んだり、昼寝などされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりタンスや鏡台、座椅子や写真など使い慣れた家具や身のまわりのものを持ち込んで頂いている。又、各部屋にボードを設置してご本人の写真や作品を飾って不安なく暮らせるように支援している。	居室は利用者が過ごしやすいように、また、本人やご家族からの希望にも柔軟に対応できるように配慮されている。個々の居室には使い慣れた家具や身の回りのものを自由に持ち込んで頂き、その人らしく落ち着いて暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールやトイレには手すりを取り付け、能力に応じてベッドに移動バーをつけたり、高さを調節したり一人で立ち上がったたり移動しやすいように工夫している。又、自分の物や部屋がどれか困らないように見やすいように名前を書いている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない